

令和3年度第1回愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会

(Web会議) 議事録

令和3年7月15日(木) 13:30~15:00

出席者 (42名)	NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会	松本	愛媛県立中央病院	大矢根、濱田、村上、渋谷、季羽、石山、武田、井上、外山、赤澤
	愛媛県庁健康増進課	三宅 担当係長		
	愛媛大学医学部附属病院	塩見、山本、小野		
	済生会今治病院	松岡、池田、西部	松山赤十字病院	金山、石川
	住友別子病院	和田、山地、高橋	市立宇和島病院	黒田、川中、沼田
	松山市民病院	三谷	四国中央病院	古川、高木、森下
	HITO 病院	守屋	十全総合病院	向井
	済生会西条病院	大谷	済生会松山病院	平岡、藤原
	市立八幡浜総合病院	高橋	四国がんセンター	灘野 (部会長) 羽藤 (副部会長) 福島、大西、関木
	愛媛労災病院	田中		
事務局	四国がんセンター	安宅 (事務担当) 欠席		

挨拶

がん相談支援専門部会 部会長 灘野 成人  
 がん相談支援専門部会 副部会長 羽藤 慎二  
 実務担当代表 四国がんセンター 福島 美幸  
 済生会今治病院 松岡 誠子  
 愛媛県健康増進課 三宅 宏和  
 おれんじの会 松本 陽子

I. 報告・協議事項

1. 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会報告  
 (第16回 5/27 オンライン配信) 福島美幸(四国がんセンター)

- 1) 小児・AYA世代のがん患者の妊孕性温存療法研究促進事業について

○事業の背景

- ・高額な自費診療となるため、特に若年のがん患者等にとって経済的負担となっている。
- ・未受精卵子凍結や卵巣組織凍結については、有効性等のエビデンス集積が更に

求められている。

- ・経済的支援に関しては、全国共通の課題であり、自治体毎の格差もあることから、国による支援が求められていた。

→妊孕性温存療法にかかる費用負担の軽減を図りつつ、患者から臨床情報等を収集することで、エビデンスの創出やガイドライン作成など、妊孕性温存療法の研究を促進するための事業を令和3年度から開始する。

○対象治療

- ①胚（受精卵）凍結 ②未受精卵凍結 ③卵巣組織凍結 ④精子凍結
- ⑤精子凍結（精巣内精子採取）

○対象者の年齢 43歳未満（下制限なし）

○対象疾患 悪性腫瘍に限定せず

- ・「小児、思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン」（日本癌治療学会）の妊孕性低下リスク分類に示された治療のうち、高・中間・低リスクの治療
- ・長期間の治療によって卵巣予備能の低下が想定される疾患：乳がん（ホルモン療法）等

○対象者の選定方法 原疾患担当医師と、生殖医療を専門とする医師の両者により検討が行われることが要件。

○実施医療機関の要件 都道府県でがん・生殖医療の連携ネットワーク体制が構築されていること

○助成について 対象者の所得制限は設けない。

助成回数 1患者あたり2回まで

○都道府県は医療機関からの申請に基づき、当該医療機関が実施機関として適切であるか否かを確認した上で、指定等を行うこと

2) 「がんと診断されて間もない人向け情報コンテンツ」について

○拠点病院の指定要件

- ・外来初診時に主治医等から、がん患者及びその家族に、相談支援センターについて説明する等、診断初期の段階から相談支援センターの周知が図られる体制を整備すること。
- ・地域の医療機関に対し、相談支援センターに関する広報を行うこと  
その資材として作成されているもの。情報資材作成WGを中心に作成中。

3) 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

○「認定がん専門相談員」認定事業

今年度の申請から、自己の相談対応のモニタリングの提出が必要。

来年度の申請から、地域開催Ⅲ群の相談員研修が必須。

- 「相談対応の質保証を学ぶ」研修講師派遣について  
コロナの影響で実施できていなかった4県について実施  
(鹿児島県、岐阜県、青森県、新潟県)

※詳細については、国がんホームページにて確認をお願いします。

## 2. 愛媛県健康増進課より「若年がん患者在宅療養支援事業」「西条市のがん対策推進条例、ウィッグ及び胸部補正具購入費助成事業」等、県内動向について

三宅宏和（愛媛県健康増進課）

### 1) 「若年がん患者在宅療養支援事業」

- 昨年度から、県と市町が連携して行っている
- 対象：20歳以上～40歳未満  
医師が、一般に認められている医学的知見に基づき回復の見込みがない状態に至ったと判断された方
- 内容：訪問介護、訪問入浴介護、福祉用具貸与、福祉用具購入 にかかる費用の一部補助
- サービス利用料の上限額：月額6万円
- 自己負担額：サービス利用料の1割
- 実施市町 昨年度6市町→今年度18市町に
- 利用の流れ：各市町の窓口、もしくはサービス事業者より申請。  
償還払いもしくは委任払い。

### 2) 「西条市のがん対策推進条例、ウィッグ及び胸部補正具購入費助成事業」

- 西条市の取り組みについて紹介
  - ・若年がん患者在宅療養支援事業
  - ・ウィッグ及び胸部補正具購入費助成事業
- 2021年4月1日以降に購入したものが対象  
一人1回の助成（複数購入されたものはまとめて申請可）

### 3) 妊孕性温存療法についての県の動向

- 愛媛県では、今年度予算なし。令和4年度から開始検討中。  
昨年度 愛媛大学では、県内で対象となりうる患者数 男性10～15名、女20～30名。凍結療法を行った患者数 男性約20例、女性約10例。  
費用が30～80万円必要であり、費用面から断念する方も多い。  
実態調査もふまえて検討。普及啓発も進めたい。

### 4) 質疑

- ・(愛媛大学 塩見)  
「若年がん患者在宅療養支援事業」において、現在実施していない市町はどこか？

→今治市、上島町。

今治市は、令和4年度からの開始を検討中。上島町は、人口自体が少ないため、対象者が果たしておられるかはわからないが、自治体に任せているところ。

・(四国がんセンター 福島)

西条市のウィッグ及び胸部補正具購入費助成事業に関して、暖だんの方にも西条市の紹介で展示物品を見に来られる方が居る。インターネットで購入できるものもあるが、高価であるのに届いてみてがっかりするようなこともある。(マンマ製品関連物品) 下着やシリコンパッド、人工乳房等、暖だんに展示しているものも参考にして検討していただくのも一つの方法。9時～12時で県内の患者さん、一般の方も見学、試着等可能。

令和3年4月からの事業ではあるが、それ以前に購入したものでもレシート等があれば合わせて申請可能と西条市から聞いている。(情報提供)

### 3. 各ワーキングからの報告

#### 1) 相談員研修 WG                      WG リーダー 篠原瞳 (四国がんセンター) 代理報告福島

##### ①今年度の相談員研修について

令和3年10月23日(土) 13:00～16:50      Zoom によるオンライン研修

1人1台のデバイス、安定したネットワーク環境があること。

内容「積極的治療の限界を告げられた患者・家族の支援」

講義、グループディスカッション

申し込み 7月末頃～9月16日      全国対象予定であるため、愛媛県内での申込は広報開始後速やかにお願いしたい。

##### ②QA 研修

愛媛県開催は今年度予定なし

国がん主催相談対応の質向上研修会(8/3開催)については7/4までに申し込み終了  
全国地域開催の研修について

(神奈川県9月25日) 県外参加可能、(鹿児島県10月15日) 県外参加可否は未定  
各々で積極的に参加して頂きたい。

##### ③国がん主催 がん専門相談員(情報支援トライアル) 研修

8月31日、10月9日 2日間研修開催予定

(参加施設) 市立宇和島病院、済生会松山病院、愛媛県立中央病院、四国がんセンター  
(協力施設) 愛媛大学医学部附属病院、四国がんセンター

#### 2) 広報活動 WG                                      WG リーダー 大西明子(四国がんセンター)

①コロナ禍で活動が困難なため、今年度は、がんサポートブックの見直しを行っている。

②がんサポートブック改訂について

6月8日 オンライン検討会を開催した。

ゲノム医療等の新しい情報も盛り込み、改訂予定となった。今後、分野毎に担当を振り分け、改訂案を検討する計画。年度内に草案を確定することを目標にする。

次回開催日は未定であるが、改訂素案がまとまれば年内には検討会を開催したい。

③がんサポートサイトえひめの進捗状況

灘野専門部会長

※寺本典弘（がん登録専門部会・相談支援部会共同）資料を参照

○（コンテンツの追加）①膵臓（5月4日～）②いたみを和らげる（2月16日～）

○更新状況のチェック→確認後公開の予定である。

○前立腺について作成中 70%程度終了している。

○サイトとしてはほぼ完成。他の疾患を増やすかどうか。

○初期の相談等に利用していただければ。

3) 災害WG

WGリーダー 関木裕美（四国がんセンター）

①定期的な災害時連絡シミュレーションの実施

・5月20日に実施した

・「愛媛県災害時がん患者受け入れ体制調査」への記載を依頼

メールの不具合で返信が遅れた施設があった。

実際の災害場面でも通信手段の不具合が想定されるため確認必要。

②課題の検討

1) がん情報サービスから依頼が入った際の被災地周辺地域受け入れ体制調査フォーマットへの記載と情報共有する際の院内・地域内確認ルートについて

・各病院でどのように確認体制をとっているかを共有しておく。

・共有方法

相談支援専門部会のMLに返信フォームを発信し、取りまとめる。（8月2日発信予定）

2) 県拠点病院（四国がんセンター）が被災した場合の情報収集の方法等の整理

該当年における実務者代表の所属病院に協力を得る形がよいのではないかな？

済生会今治病院→現時点で引き受けるとは言えないが、方向性としては賛成。

専門部会として規約等を整え正式に依頼できるよう準備したい。

③災害発生時における専門部会活動の中止・延期の決定に関わる取り決め

・Web研修であっても災害が起こる可能性はあるため、中止・延期となる場合の取り決めは必要。今年度後半で検討予定。

④必要時：愛媛新型コロナウイルス感染症に関わる診療状況及び相談対応等の情報共有をMLにて実施

地震、豪雨等災害は起こりうる。大まかに決めておいて、実際の場面においては臨機

応変に動くことになると思われる。

4) チェックリスト WG WG リーダー 松岡誠子 (済生会今治病院)

①昨年度

34 項目から 28 項目へ

判断基準があいまいで回答にばらつきがあった→評価指標案を提案

サロン、地域との関係等コロナ禍での活動

各病院の評価の結果を情報共有し検討する場を設ける

②今年度の活動目標

③スケジュール

評価指標、チェックリスト修正版を本部会にて承認されたら7月中にメール配信、

11月30日までに提出、WGで結果を取りまとめる

④評価指標案について

特に意見なし

今後適宜見直すことで承認されたと見なす。

4. 情報交換

○平成30年度患者体験調査に基づく提言書

松岡誠子 (済生会今治病院)

「1. 診断時の患者への情報周知」と「2. 相談支援センターの活用」について、各施設での取り組みや課題について

(おれんじの会・松本氏より)

2019年度 患者調査 全国7000人 愛媛県では6施設に調査協力を得た。全国的にも愛媛県の協力数は多く感謝申し上げます。診断直後から知っておくべき情報へアクセスするような体制を取っていただきたいというところは、長年当事者の立場からお願いしているところである。更にコロナ禍で告知を受け孤独だったといった患者たちの声も聞いている。他県のがん専門病院では、診断時相談支援センターを通らないと会計に行けないという病院もあるようだ。

(愛媛大学医学部附属病院)

入院予定が入った段階で、入サポと連携して相談支援センターの案内をしている。医師数が多数であるため、看護師が案内している現状がある。主治医から案内をしてもらえたら理想。

(済生会今治病院)

ビニールファイルに相談支援センター、就労支援、サロン、がんサポートサイトえひめ、みんなの質問ノート、がんサポートブックえひめ、をワンセットにして外来診療部門に配置。告知があった場合に看護師より渡すよう取り組んでいる。化学療法室にも配置している。課題としては、各診療科により温度差ある。資料を渡した後、どのように支援

につながっているのか現状把握ができていないことが挙げられる。

(四国がんセンター)

デジタルサイネージに相談支援センターについて案内を表示することを考えている。

告知時、がん専門看護師や認定看護師が「がん看護カウンセリング」を行う際、相談支援センターのリーフレットを渡し、支援センターを紹介している。また、検査入院等の場合、退院支援に関わった際、後方支援担当者がリーフレットを渡すこともある。

課題としては、主治医から案内・相談はあるが、数は少ないことが挙げられる。

(市立宇和島病院)

病院のホームページ、入院のしおりで案内したり、総合案内や受付に案内表示をしている。主治医から告知する場合、がん認定看護師が立ち会い、パンフを渡すこともある。

課題としては、病棟等で告知をする場合もあり対応できていないことが挙げられる。そのため、立ち会ったスタッフ、主治医から情報を発信してもらうようにできればと考える。

(医師の立場より部会長、副部会長)

必ず相談支援センターを通して帰るとなると、マンパワーが足りないのではないか。

主治医がまとまった資料を渡すのはできそう。

全員に一律にするのは難しいと思われる。患者に合わせて対応できるように、物があれば対応しやすいと思われる。

○まとめ

本日の情報共有を参考にしながら、各施設内においても取り組んでいく。

## II.その他

### 1. サロン再開について

福島美幸（四国がんセンター）

四国がんセンター 暖だん開催 患者サロン

○ひまわりサロン（ピアサポーター派遣）開催までの道のり

コロナ禍で面会中止の中、オンラインでピアサポーターとつながりを持った。

スタッフもオンラインに慣れることが必要であった。2021年6月～集合型再開

○集合サロン開催の工夫 ・ 広報の工夫

人数制限（5名まで）、時間短縮（45分）、換気、ソーシャルディスタンス、マスク着用、手指消毒の徹底、ティーサービス中止、事前申込制（緊急時連絡）など

○サロンの様子、感想

参加者のルール規制に対して特に意見されることはなかった。むしろ直接会って話せることの喜びの感想は大きかった様子であった。

（愛媛県ピアサポーター派遣事業元の代表者である松本氏より）

病院でのサロン再開を心待ちにしていた。各施設においても再開について制限はあると

思うため、方法について一緒に考えさせていただきたい。ぜひ声をかけて欲しい。

2. 地域相談支援フォーラムについて 福島美幸（四国がんセンター）

「がん相談員フォーラム in 四国 2021」

開催予定：（主催）徳島県・高知県（協力）香川県・愛媛県

開催候補日：令和4年 1月22日か29日（2月6日 11日 12日 13日）

時間：4～6時間程度（午後開催か昼前から夕方開催）

開催方法：Web（Zoom or Webex）

研修形式：講義＋グループワーク＋各県の取り組み報告

募集人数：40名 県外参加も可

テーマ：概ね、コロナ禍における相談対応関連の予定

※正式な広報が入れば案内するため、日程等スケジュールに入れて頂きたい。

3.その他

（おれんじの会・松本氏より）

コロナワクチン接種について、基礎疾患のある患者は優先接種となっているはずであるが、愛媛県にて進んでいない状態。20～30歳代の治療患者の不安が大きい。国の示したように優先してもらえるよう市町へ患者支援団体3団体から要望書を提出したところである。市町村によって格差があるようだ。

以上

議事録担当：済生会松山病院（次回は、市立八幡浜総合病院）